

## はじめに

『青森県史』という、丁寧につくられた本があります。この豊富な資料を「働く女性の家」の事業に活用したいと県史編さんグループにお願いしたところから生まれたのが、講座「わが街『青森』をタイムトラベル」です。今暮らしている地域の歴史に目を向けることで、自分の生き方・暮らし方、社会を問い直し、かつこれからのまちづくりや社会づくりに関わっていくきっかけになるのではないかと、また「働く女性の家」ですから、女性がどう生きていたかも知りたいという意図も含まれています。

受講の方々の「もっと聴きたい」に押され、平成20年度から24年度まで5年6回にわたって、この事業を開催してきました。その数年の間にも閉店した店があり、新幹線は開通し、めまぐるしい動きをしています。記録しておかなければ「なかった」ことになってしまう(事実、「背負い子さん」や「集団就職」はもはやノスタルジーの世界かもしれません)。更に、それがなぜあったのか、どんな日々があったのかはますます見えなくなってしまうと予想できます。

そこで、24年度、講座講師の中園裕さんの提案を受け、受講の方々を中心に記憶を拾うアンケートも実施することにいたしました。このアンケートには、約100名の方が答えてくださいました。平成24年現在の証言です。本冊子の骨格にあるのは、このアンケート結果です。資料編をお読みいただくと、「あの頃」がいきいきとよみがえってくるに違いありません。

番外編として、女性7人にインタビューしたものを「『働く』女性 温故知新」としてまとめました。昭和30年代からの高度経済成長期そして現在に至る個人の歴史もまた、私たちのこれからのヒントをくれるものと存じます。

巻末には、女性の労働や男女共同参画のかいつまんだ歴史を年表にしてあります。「あー、この時代にはこんなことがあった。それがここにも影響している。では、これからは...」、そんな話題に拡がっていけば幸いです。歴史の中にヒントを見つけ、「21世紀の我が国社会を決定する最重要課題」(男女共同参画社会基本法 前文より)の解決に向けた実践に一步でも踏み出せればと祈念しております。

最後に、アンケートにご協力いただいた皆様、取材にご協力いただいた皆様、資料提供をいただいた青森県県民生活文化課 県史編さんグループ、同グループの中園裕さん、スタッフに心から感謝申し上げます。

青森市働く女性の家  
館長 白井壽美枝